

令和6年度第2回 北海道立女性プラザ運営協議会 開催結果

1 日 時

令和7年3月24日（月） 13：30～14：40

2 開催場所

かでる2・7 610会議室

3 出席者

(1) 委 員

池端委員、上田委員、大島委員、繁富委員、森崎委員、矢野根委員

(2) 事務局

笹谷館長、近藤副館長、浜田

4 議 題

- (1) 令和6年度事業実施状況について
- (2) 令和6年度図書及びDVDソフトの購入状況について
- (3) 令和7年度事業計画（概要）

5 主な意見

（情報発信について）

- FB やInstagramによる情報発信を行っているが、事業報告に FB などへの投稿数を挙げることにより、取組の努力の度合いを示すことができるのではないかと。
- 情報発信の手法として、女性プラザの youtube チャンネルをつくってはどうか。例えば、講演内容を映像で保存することにより、オンタイムで見れない人や遠くに住んでいる方がみることができるし、コメント欄により動画に対する意見や感想、要望などを把握することができる。また、動画を見て興味を持った人が情報を拡散してくれる可能性が広がる。

（男性相談、男性向け講座について）

- 男性相談は、「ジェンダーに起因する」悩みに限定するのか。このように限定することにより、相談していいのかどうかためらうことも考えられるのではないかと。
- 保健婦の仕事をしている中で、妊婦の夫の方から、「妻が鬱っぽく、自分も鬱になっていると思うが、そのことを話す場所がない」といった話を聞くことがあり、そうした方には救いになると思う。
- 介護離職の防止に向けて、新年度から企業側が社員に情報提供やフォローをすることが義務付けられるため、企業の求めに応じて介護制度などについての出前講座的なことも考えられるのではないかと。
- ケアメン講座に参加した。女性の参加に枠が広がったのはよかったし、現役で働く男性が介護について学ぶ貴重な機会だと思うが、参加者が少なかったことは残念。企業に向けてもっと発信できれば良いのではないかと。

（若年層に対する働きかけについて）

- これまでの利用者は年齢の高い方が多いようだが、若い世代への働きかけが重要
- 「女性プラザでこういうセミナーがあるよ」と紹介しても、反応が薄いことが多い。子育て世代の方が興味を持つような身近な話題のものがあるといい。

- 働いている世代の方で生理痛や更年期のことで悩んでいる方はすごく多いので、こうしたテーマであれば、仕事帰りの方に参加していただくことができるのではないかな。
- 最近では、就労支援をテーマにしたセミナーを開催しても参加者が少なくなっている。意欲のある人は自分で情報を得ることができる時代になってきているということかもしれない。
- 最近では、地方でも外国人の労働者が増えてきており、観光や農業水産業など地域経済にとって必要な存在になりつつあるが、こうした方を受け入れる体制づくりが求められており、料理や文化の紹介など、地域に馴染んでいただける取組を行なってはどうか。
- 女性の自立と社会参加の促進という設置目的を達成するためには、ターゲットとなる年齢層を下げていくことが求められる。そのためには、大学生などの若い世代とのつながりを持っていく必要がある。特に専攻していなくても、ジェンダーに関わる勉強をしていたり、関心を持っている学生は結構多いと感じており、そうした学生が参加できる企画をオンラインで行うことができるとよい。
- 最近の若い人には、ジェンダー平等に関する理解が一定程度進んできていて、我々のような中高年世代の頭が固すぎる面もあるため、むしろ、我々が学ぶために学生に来てもらう必要があるのかもしれない。
- ジェンダー平等出前講座の受講アンケートでは、講座を受講してアンコンシャスバイアスについて理解を得たという意見もかなり多いので、気付きを与えることは重要。